

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2004-134151
 (43)Date of publication of application : 30.04.2004

(51)Int.Cl. H05B 33/22
 H05B 33/02
 H05B 33/14
 H05B 33/26
 H05B 33/28

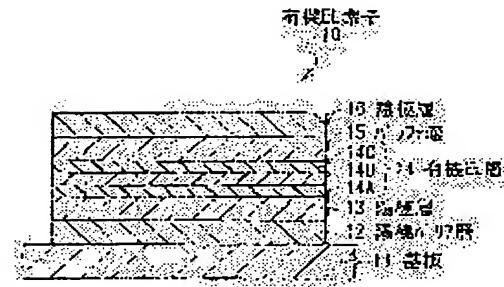
(21)Application number : 2002-295649 (71)Applicant : SONY CORP
 (22)Date of filing : 09.10.2002 (72)Inventor : KOSHISHI AKIRA

(54) ORGANIC EL ELEMENT

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an organic EL (electroluminescent) element for obtaining a stable light-emitting property and improving brightness of a display.

SOLUTION: An anode barrier layer 12 having a high barrier property against at least water is formed on a substrate 11. The water intruded from a side of the substrate 11 is shut off by the barrier layer 12 and an organic EL layer 14 is prevented from being intruded by the water. Thereby, deterioration of the EL layer 14 is suppressed even if the substrate 11 is composed of a plastic material. The barrier layer 12 has a transmittancy against light in a visible light region of 50% or higher and has a specific resistance of 0.001 Ωcm or lower. Thereby, light emitted from the EL layer 14 is passed through the barrier layer 12 and efficiently derived from a rear face of the substrate 11.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's

decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-134151

(P2004-134151A)

(43) 公開日 平成16年4月30日(2004.4.30)

(51) Int. Cl.⁷
H05B 33/22
H05B 33/02
H05B 33/14
H05B 33/26
H05B 33/28

F I
H05B 33/22
H05B 33/02
H05B 33/14
H05B 33/26
H05B 33/28

テーマコード(参考)
3K007

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2002-295649 (P2002-295649)
(22) 出願日 平成14年10月9日 (2002.10.9)

(71) 出願人 000002185
ソニー株式会社
東京都品川区北品川6丁目7番35号
(74) 代理人 100098785
弁理士 藤島 洋一郎
(72) 発明者 舞石 亮
東京都品川区北品川6丁目7番35号
ソニー株式会社内
Fターム(参考) 3K007 AB03 AB11 AB13 BA07 CA06
CB01 CC00 DB03 EA00

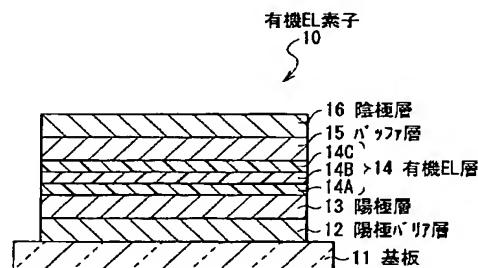
(54) 【発明の名称】有機EL素子

(57) 【要約】

【課題】 安定した発光特性を得ることが可能となり、ディスプレイの輝度を向上させることができる有機EL素子を提供する。

【解決手段】 基板11の上に、少なくとも水分に対して高いバリア性を有する陽極バリア層12が形成されている。この陽極バリア層12により基板11側から浸入した水が遮断され、有機EL層14に水が浸入することが防止される。これにより、基板11をプラスチック材料からなるようにした場合でも、有機EL層14の劣化が抑制される。また、陽極バリア層12は可視光領域の光に対する透過率が50%以上で、かつ比抵抗が0.001Ω cm以下である。これにより、有機EL層14での発光が、陽極バリア層12を通じて透過し、基板11の裏面から効率よく取り出される。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

基板と、
この基板の一面に、陽極層、有機EL層および陰極層をこの順で積層してなる素子部と、
前記基板と前記素子部の有機EL層との間に形成された、少なくとも水分に対するバリア
性を有する1または2以上のバリア層と
を備えたことを特徴とする有機EL素子。

【請求項 2】

前記陽極層が前記バリア層を兼ねている
ことを特徴とする請求項1記載の有機EL素子。

10

【請求項 3】

前記バリア層は、可視光領域の光に対する透過率が50%以上であり、比抵抗が0.00
1Ωcm以下の透明電極である
ことを特徴とする請求項1記載の有機EL素子。

【請求項 4】

前記バリア層は、酸化亜鉛(ZnO)、または、ガリウム(Ga)あるいはアルミニウム
(Al)がドープされた酸化亜鉛(ZnO)からなる透明電極である
ことを特徴とする請求項1記載の有機EL素子。

【請求項 5】

前記陽極層と前記基板との間に開口部を有する補助電極を備えており、前記開口部内に前
記バリア層が形成されている
ことを特徴とする請求項1記載の有機EL素子。

20

【請求項 6】

前記開口部は、前記基板面の全体に対して50%以上の面積を有する
ことを特徴とする請求項5記載の有機EL素子。

【請求項 7】

前記バリア層は、窒化シリコン(SiNx：但し、xは正数)、酸化シリコン(SiOx：但し、xは正数)、または窒化酸化シリコン(SiOxNy：但し、x,yは正数)からなる
ことを特徴とする請求項5記載の有機EL素子。

30

【請求項 8】

前記基板はフレキシブル性を有する
ことを特徴とする請求項1記載の有機EL素子。

【請求項 9】

前記基板はプラスチック材料からなる
ことを特徴とする請求項8記載の有機EL素子。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、発光素子として表示装置に用いて好適な有機EL素子に関する。

40

【0002】**【従来の技術】**

従来、表示装置(ディスプレイ)としては、据え置き型のブラウン管すなわちCRT(Cathode Ray Tube)装置や、携帯用や薄型化の要求を満たすためのフラットパネルディスプレイがある。ブラウン管は輝度が高く、色再現性が良いために現在多用されているが、占有容量が大きい、重い、消費電力が大きい等の問題点が指摘されている。一方、フラットパネルディスプレイは、軽量であり、ブラウン管よりも発光効率に優れおり、コンピュータやテレビジョンの画面表示用として期待されている。現在、フラットパネルディスプレイでは、アクティブマトリクス駆動方式の液晶ディスプレイ(LCD；Liquid Crystal Display)が商品化されている。このLCDは

50

、自ら発光せずに外部よりの光（バックライト）を受けて表示するタイプのディスプレイであり、視野角が狭い、自発光型ではないために周囲が暗い環境下ではバックライトの消費電力が大きい、今後実用化が期待されている高精細度の高速のビデオ信号に対して十分な応答性能を備えていない等の問題点が指摘されている。

【0003】

このような種々の問題点を解決する可能性のあるディスプレイとして、近年、有機ELディスプレイが注目されている。有機ELディスプレイは、発光層が有機発光材料からなる有機EL素子がマトリクス状に配列された構成を有しており、この有機EL素子では、透明電極である陽極層と陰極層とがマトリクス構造を形成しており、選択された陽極層と陰極層との間に電圧を印加して有機EL層に電流を流すことによって、画素を発光させる。発生した光は、陽極層側から外部に取り出される。

10

【0004】

このような構成を有する有機ELディスプレイは、バックライトが不要である自発光型のフラットパネルディスプレイであり、自発光型ディスプレイに特有の視野角の広いディスプレイが実現できるという利点を有する。また、必要な画素のみを点灯させればよいために更なる消費電力の低減を図ることが可能であると共に、上述の高精細度の高速のビデオ信号に対して十分な応答性能を備えていると考えられている。更に、このような有機ELディスプレイは、近年、有機発光材料が本来有するフレキシブル性を利用するため、基板としてプラスチック基板を用いることにより、フレキシブル性を有する装置としても注目されている。

20

【0005】

【特許文献1】

特開平6-124785号公報

【特許文献2】

特開平14-100469号公報

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、有機ELディスプレイを構成する有機EL素子には、発光層に用いられる有機発光材料の寿命に問題があった。すなわち、その原因の一つとして、外部から有機EL層に侵入する水分の影響が挙げられ、素子の内部に水分が侵入すると、陰極層が酸化したり有機化合物との界面で剥離することでダークスポットが生じるという問題があった。この問題は、特にプラスチック基板を用いた場合に顕著に現われてしまう。

30

【0007】

例えば、特許文献1のように、有機EL素子の基板としてプラスチック基板を用いると、このプラスチック基板を透過して、有機EL素子内に水分が侵入することにより有機EL層が劣化してしまうため、安定した発光特性が得られないという問題があった。また、このような問題を解決するためにプラスチック基板を封止する技術が研究されており、例えばプラスチック基板の両面に無機バリア層を成膜することにより、良好な防湿性が得られていると報告されている（特許文献2参照）。しかし、基板の両面に数百nmの無機膜を成膜していることから、可視光透過率やフレキシブル性が低下し、そのため輝度が低下するという問題があった。また、このような素子が用いられるディスプレイでは、その収納性が低下するという問題があった。

40

【0008】

本発明はかかる問題点に鑑みてなされたもので、その目的は、安定した発光特性および十分な輝度を得ることが可能となり、またディスプレイとしての収納性を向上させることができる有機EL素子を提供することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】

本発明による有機EL素子は、基板と、この基板の一面に、陽極層、有機EL層および陰極層をこの順で積層してなる素子部と、前記基板と前記素子部の有機EL層との間に形成

50

された、少なくとも水分に対するバリア性を有する1または2以上のバリア層とを備えたものである。

【0010】

本発明による有機EL素子では、基板と有機EL層との間のバリア層により、基板側から浸入した水分が遮断され、有機EL層への浸入が阻止される。その結果、有機EL層の劣化が抑制される。

【0011】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について図面を参照して詳細に説明する。

【0012】

図1は、本発明の一実施の形態に係る有機EL素子10の断面構成を表すものである。有機EL素子10は基板11を備えており、この基板11の上には陽極バリア層12が形成されている。この陽極バリア層12は、特に水分に対して高いバリア性を有する。陽極バリア層12の上には陽極層13が形成されている。陽極層13の上には有機EL層14、バッファ層15および陰極層16がこの順に形成されている。

【0013】

基板11は、例えば可視光領域の光に対して十分に透明であり、フレキシブル性を有するプラスチック材料からなる。この基板11の裏面から有機EL層14で発光された光が取り出される。なお、基板11はガラス材料からなるようにしてもよい。

【0014】

陽極バリア層12は、水分や酸素(O₂)、特に水分に対して高いバリア性を有する材料、例えばガリウム(Ga)がドープされた酸化亜鉛(ZnO)からなり、その厚さが50nmの透明電極である。この陽極バリア層12により基板11側から浸入した水分が遮断され、有機EL層14への水分の浸入が阻止される。

【0015】

この陽極バリア層12は、有機EL層14での発光が、陽極バリア層12を透過し、基板11の裏面側から取り出されることから、可視光領域の光に対する透過率が50%以上であることが好ましい。更に、陽極バリア層12は、陽極層13とともに有機EL層14への正孔の注入電極であるから、低抵抗、例えば比抵抗が0.001Ωcm以下であるのが好ましい。ここで、陽極バリア層12の材料としては、上記GaがドープされたZnOに加えて、アルミニウム(Al)がドープされたZnOやノンドープのZnOが挙げられる。

【0016】

陽極層13は厚さが例えば200nmであり、有機EL層14に効率よく正孔が注入されるように真空準位からの仕事関数が大きく、有機EL層14からの発光が取り出させるよう透光性を有する材料からなるようとする。陽極材料としては、例えば酸化インジウム錫(Indium Tin Oxide; ITO)、酸化錫(SnO₂)等が挙げられる。

【0017】

有機EL層14は、例えば陽極層13の側から順に正孔輸送層14A、発光層14Bおよび電子輸送層14Cが積層されたものである。

【0018】

正孔輸送層14Aは、陽極層13から注入された正孔を発光層14Bまで輸送するためには設けられる。正孔輸送層14Aの材料としては、例えば、ベンジン、スチリルアミン、トリフェニルアミン、ポルフィリン、トリアゾール、イミダゾール、オキサジアゾール、ポリアリールアルカン、フェニレンジアミン、アリールアミン、オキザゾール、アントラゼン、フルオレノン、ヒドロゾン、スチルベン、あるいはこれらの誘導体、または、ポリシラン系化合物、ビニルカルバゾール系化合物、チオフェン系化合物あるいはアニリン系化合物等の複素環式共役系のモノマー、オリゴマーあるいはポリマーを用いることができる。具体的には、α-ナフチルフェニルジアミン、ポルフィリン、金属テトラフェニルポル

フィリン、金属ナフタロシアニン、4, 4, 4-トリス(3-メチルフェニルフェニルアミノ)トリフェニルアミン)トリフェニルアミン、N, N, N, N-テトラキス(p-トル) p-フェニレンジアミン、N, N, N, N-テトラフェニル4, 4-ジアミノビフェニル、N-フェニルカルバゾール、4-ジ-p-トリルアミノスチルベン、ポリ(パラフェニレンビニレン)、ポリ(チオフェンビニレン)、ポリ(2, 2-チエニルピロール)等が挙げられる。

【0019】

発光層14Bは、陰極層16と陽極層13との間に電位差が生じると、陰極層16および陽極層13のそれぞれから電子および正孔が注入され、これら電子および正孔が再結合して発光する領域である。この発光層14Bは、発光効率が高い材料、例えば、低分子蛍光色素、蛍光性の高分子、金属錯体等の有機材料から構成されている。具体的には、例えば、アントラセン、ナフタリン、フェナントレン、ピレン、クリセン、ペリレン、ブタジエン、クマリン、アクリジン、スチルベン、トリス(8-キノリノラト)アルミニウム錯体、ビス(ベンゾキノリノラト)ペリリウム錯体、トリ(ジベンゾイルメチル)フェナントロリンユーロピウム錯体ジトルイルビニルビフェニルが挙げられる。

10

【0020】

電子輸送層14Cは、陰極層16から注入される電子を発光層14Bに輸送するために設けられる。電子輸送層14Cの材料としては、例えば、キノリン、ペリレン、ビススチリル、ピラジン、またはこれらの誘導体が挙げられる。具体的には、8-ヒドロキシキノリンアルミニウム、アントラセン、ナフタリン、フェナントレン、ピレン、クリセン、ペリレン、ブタジエン、クマリン、アクリジン、スチルベン、またはこれらの誘導体が挙げられる。

20

【0021】

バッファ層15は、例えば酸化リチウム(Li₂O)からなる。このバッファ層15により、発光開始電圧を下げることが可能となる。

【0022】

陰極層16は、例えばアルミニウム(Al)、金(Au)、Cu(銅)またはその合金からなる。

【0023】

このような構成を有する有機EL素子10は、例えば以下のようにして製造することができる。まず、例えばスパッタリング法によって、基板11の上に、GaがドープされたZnOからなる陽極バリア層12を形成する。次に、例えば反応性DCスパッタリング法を用いて、ITOからなる陽極層13を形成する。次いで、真空蒸着法によって、陽極層13の上に、正孔輸送層14A、発光層14Bおよび電子輸送層14Cを順次成膜することにより、有機EL層14を形成する。次いで、真空蒸着法によって、有機EL層14の上に、Li₂Oからなるバッファ層15を形成する。最後に、真空蒸着法によって陰極層16を形成することにより、有機EL素子10が完成する。

30

【0024】

本実施の形態の有機EL素子10では、基板11の上に、特に水分に対するバリア性を有する陽極バリア層12を設けるようにしたので、この陽極バリア層12により基板11側から浸入した水分が遮断され、有機EL層14への水分の浸入が防止される。よって、基板11をプラスチック材料からなるようにした場合でも、有機EL層14の劣化が抑制され、その結果、安定した発光特性を得ることが可能となる。

40

【0025】

また、陽極バリア層12は可視光領域の光に対する透過率が50%以上で、かつ比抵抗が0.001Ωcm以下であるので、この陽極バリア層12を通じて有機EL層14での発光が透過し、基板11側から効率よく取り出すことができる。よって、本実施の形態の有機EL素子10をディスプレイに適用した場合、そのディスプレイの輝度を向上させることができるとなる。

【0026】

50

更に、有機EL層の劣化を防止するために従来の素子のような無機膜を基板の両面に成膜する必要がなくなるので、本実施の形態のように基板11をプラスチック材料からなる薄膜とすれば、ディスプレイの収納性を向上させることができる。

【0027】

以上、実施の形態を挙げて本発明を説明したが、本発明は上記実施の形態に限定されるものではなく、種々変形が可能である。例えば、上記実施の形態では、基板11と陽極層13との間に陽極バリア層12を一層形成するようにしたが、複数層形成するようにしてもよい。例えば、図2に示した有機EL素子20のように、陽極層13と有機EL層14との間に、更に陽極バリア層21を設けるようにしてもよい。

【0028】

また、上記実施の形態では、陽極バリア層12を陽極層13とは別に設ける構成としたが、図3に示した有機EL素子30のように、陽極層を例えばZnOにより形成することにより、陽極そのものがバリア機能を有する陽極兼バリア層31としてもよい。更に、図4および図5に示した有機EL素子40のように、基板11の上に、開口部41Aを有する補助電極41を形成し、開口部41A内にバリア層42を形成するようにしてもよい。バリア層42は、前述の陽極バリア層12と同じく水分に対して高いバリア性を有し、可視光領域において透明な材料、例えば窒化シリコン(SiNx:但し、xは正数)、酸化シリコン(SiOx:但し、xは正数)、または窒化酸化シリコン(SiOxNy:但し、x, yは正数)等の絶縁材料からなるようにする。開口部41Aは、有機EL層14での発光が十分に透過するように、基板11の表面全体の50%以上の面積を有することが好ましい。

【0029】

【発明の効果】

以上説明したように請求項1ないし請求項9のいずれか一項に記載の有機EL素子によれば、基板と有機EL層との間に、少なくとも水分に対するバリア性を有する、1または2以上のバリア層を備えるようにしたので、このバリア層により基板側から浸入した水分が遮断され、有機EL層への浸入を防止することができる。よって、基板をプラスチック材料からなるようにしても、有機EL層の劣化が抑制され、その結果、安定した発光特性を得ることが可能となる。

【0030】

また、請求項3記載の有機EL素子によれば、バリア層が可視光領域の光に対する透過率が50%以上で、かつ比抵抗が0.001Ωcm以下であるので、このバリア層を通じて有機EL層での発光が透過し、基板側から効率よく取り出すことができる。よって、本発明をディスプレイに適用した場合、そのディスプレイの輝度を向上させることができる。

【0031】

また、請求項8記載の有機EL素子によれば、有機EL層の劣化を防止するために従来の素子のような無機膜を基板の両面に成膜する必要がなくなるので、基板にフレキシブル性を持たせることにより、素子全体がフレキシブル性を有するようになり、その結果、本発明をディスプレイに適用した場合、そのディスプレイの収納性を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施の形態に係る有機EL素子の構成図である。

【図2】有機EL素子の変形例である。

【図3】有機EL素子の変形例である。

【図4】有機EL素子の変形例である。

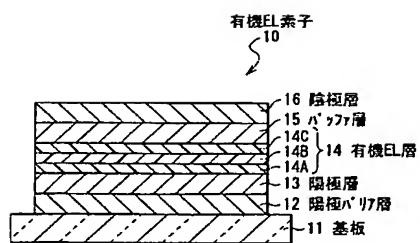
【図5】図4に示した有機EL素子の変形例のバリア層を含む平面で切った縮小断面図である。

【符号の説明】

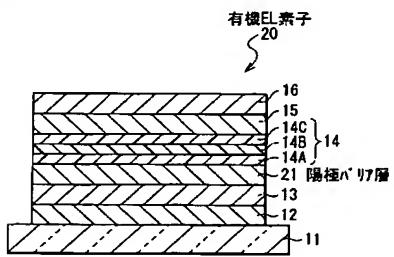
10, 20, 30, 40 . . . 有機EL素子、11 . . . 基板、12, 21 50

13 陽極バリア層、14 陽極層、14A 有機EL層、14B 正孔輸送層、14C 発光層、15 電子輸送層、16 バッファ層、41A 開口部、31 陽極兼バリア層、42 バリア層

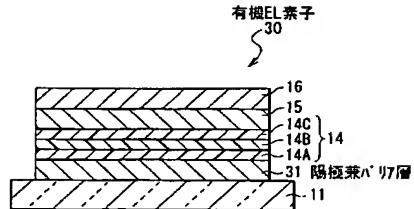
【図 1】



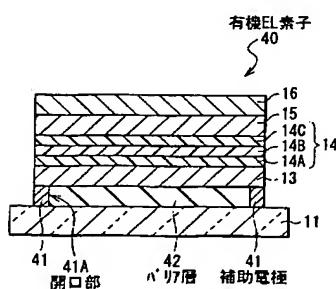
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

